

## ハンドメイドの 自転車をつくる

高村久男さん  
(朝来町)



トライアスロン用競技自転車

雪解けの音が春の訪れを知らせ、但馬にも華やかな季節がやって来ようとしています。

自転車をこの上なく愛する高村久男さんは、ハンドメイドの自転車をつくる職人です。生まれも育ちも大阪の高村さんが、奥さんの故郷である朝来町に自転車工房をかまえて7年。

「空気がきれいで自然の豊かな場所に住みたい」と思い朝来町へ来ました。大学時代からサイクリングクラブに所属し、自転車で日本全国津々浦々まで旅をしていたといいます。

大学卒業後、大阪の自転車部品卸屋の制作部門で3年間修行を積み制作部門閉鎖を機に独立しました。お店からの注文を受け、フレームをつくるのが高村さんの仕事。もちろん個人からの注文も受け付け、完成品も納品します。

ひとくちに自転車といってもいろいろな種類があり、大きく4種類に分類されます。長距離を走るツーリング車、田舎やくぼくぼの軽快車(ママチャリ)、山などを走るMTB(マウンテンバイク)、競技用のロードレーサー。現在高村さんの受ける仕事の8割は競技用自転車、残りの2割が趣味で乗られる方だといいます。

「自転車の世界は奥が深く、けいこく(こころ)なだけにこだわりを持ってあげられ

るお客さんも多いんです。オリジナルデザインの自転車をつくってほしいと相談されると、企画に始まり、デザイン、設計、素材選定と、あれこれ考え、1年越しで完成させることもあります」

これまでに2人乗り自転車など数々のオリジナル自転車を手がけてきました。一番難しいのは、前輪と後輪が一平面になり、きちつと芯の通った自転車をつくること。芯が通った自転車は手を離しても、まっすぐ進みます。「これが技術と経験の見せしめ」。

「自分のつくった自転車が優勝した時や、ツーリング車で旅先から給水缶を送ってもらったりする時が、自転車をつくっていてよかったと思つ時ですね」

高村さん自身は、なかなか自転車に乗る時間がとれないと嘆きの声。自転車に乗る楽しさも苦しさも知っている高村さんだからこそ、乗る人のことを考えた自転車をつくることができているんですね。

「人はそれぞれに手足の長さが違います。自分にあっていない自転車に長時間乗ると、へんなどころに力が入って疲れが増しますよ」とアドバイス。これから暖かくなって、サイクリングに絶好の季節がやってきたら、なっそうと但馬の木立を走り抜けるのもいいですね。

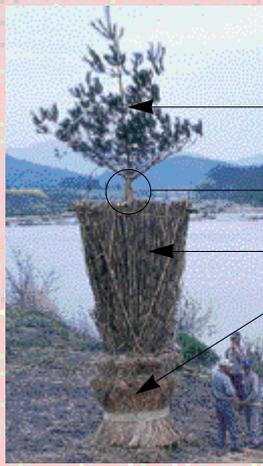
コミュニティFM fmジャングル

ラジオが与えてくれるもの  
それは夢、希望、みんなの笑顔

76.4MHz

http://www.764.fm

豊岡市大手町4-5 TEL.0796-22-0764 FAX.0796-29-0764 jg@764.fm



御柱松

わら人形

女竹

わら



# 高さ4.5mもある「御柱松」に火を放つ「御柱祭」 悲しい伝説が伝えられ、「この日は南風が強く吹く」といふ。

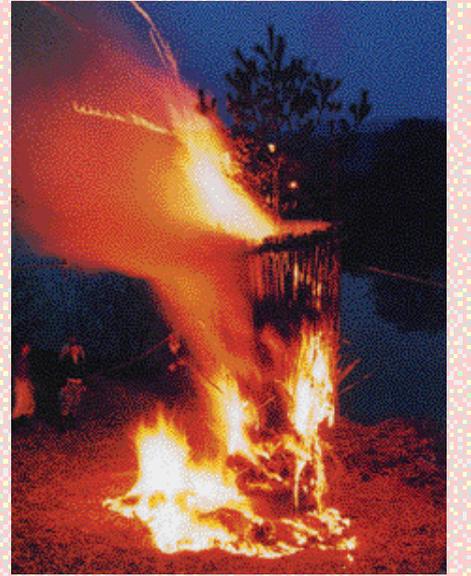
春、まじり盛りの4月14日、日高町松岡にある十二所神社前の円山川河川敷に、巨大な「御柱松」が登場する。ずっと昔から伝えられる「御柱祭」の準備だ。俗に『ばば焼き』と呼ばれている。起源については定かではないが、明治5年の「十二所神社縁起書」に、いわれが記されており、さらに古くから行われていたと思われる。そして、「ここには悲しい話が伝えられていた。今から700年以上も昔、後鳥羽上皇は鎌倉幕府打倒の兵を挙げ、執権北条義時を中心とする幕府軍に鎮圧された事件「承久の乱(1221年)」を起こした。後鳥羽上皇の第三子である雅成親王は責任を追及されて、現在の豊岡市高屋(はつきり)とはわかつていない(へ流罪)となった。

雅成親王の妃の幸姫が夫君のあとを慕って、懐妊の身にもかかわらず、三十余里の道を歩き、日高町松岡村までたどり着いた。この時、幸姫は急に産気づかれ王子が誕生した。不安な思いの幸姫は、あそこどれくらいで、高屋に着くのでしようかと老婆へたずねたところ、老婆は「高屋までは、九日通る九日市、十日通る豊岡その先は人を取りましよう」と答えて二十日はかかると答えて、偽りでほんとうは三里(12km)にもたらぬ道であった。だが、老婆の言葉が信じた幸姫は泣き崩れ、「もう二三日の旅さえおぼつかないのに、これからまだ二十日も歩くとは...」と絶望された。産まれたばかりの王子を石の上に乗せ、死後南風となって高屋に達しよう」と言い残し、円山川に入水されたのであった。残された王子は高屋の本井氏に育てられ、光妙寺現在の豊岡市光行寺)に入り、出家して浄円というお坊さんになられたと伝えられている。

そのことを知った村の人々は、この老婆を火あぶりにした。その後、毎年この頃になると、決まったように洪水が起きて、人々を苦しめたので、幸姫の霊を十二所神社に祀ったという。神社の前にはその時の身投げ石があったといわれている。

最近までは、上郷・松岡・府市場・土居・芝の地で「御柱祭」をおこなっていたが、今は松岡区だけに残されている。松岡区の人々は隣保で当番を決

め、毎年20名くらいで「御柱松」をつくらせている。女竹などを用いて「お鉢」と呼ばれる鉢型のものをつくり、中にわらを詰め、「御柱松」と呼ばれる葉付きの生松の木に絡みつけ、鉢型の上部に立ち上げる。14日の夕方に火をつけるのだ。そして、その火は十二所神社本殿に奉納される。「この日はなぜか、幸姫の言葉通り南風が強く吹く」といふ。現在では、五穀豊穡と厄よけを願う行事としておこなっている。



また、昭和11年、十二所神社を4mほどかさ上げ工事をした時に、京都大学の調査がおこなわれ、本殿の下から、傘の台、小刀、金襴の着物の端などが出てきたという。それらのものが、何を意味しているのかはわかっていない。今年も天を焦がし、「御柱祭」がおこなわれる。

協力：松岡区長 竹中巖さん

## 好きな心着だけを集めました



心着展示会

全国手織つむぎ博  
3月9日(土)・10日(日)・11日(月)  
姫路市文化会館(要予約)  
大創業祭  
5月11日(土)~20日(月)  
当店雅の間  
振袖~おしゃれな綿、和雑貨、こだわり品。四季折々の常設展示場をご覧ください。

まきものことくら  
まきのサマンケイバに  
●着付け教室●まきのマナー教室  
●まきのトータルコーディネート  
豊岡市富田1番7-1 電話24-9239  
フリーダイヤル0120-529-008